

機関番号：14101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21792174

研究課題名（和文）新卒看護師とプリセプターがとらえる効果的サポートの相違

研究課題名（英文）

Difference of effective support that new graduate nurses and preceptor nurses

研究代表者

久田 雅紀子 (HISADA AKIKO)

三重大学・医学部・助教

研究者番号：70437101

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、新卒看護師と先輩看護師双方がとらえる新卒看護師の効果的サポートに関する思いを明らかにすることである。研究方法は新卒看護師7名とそのプリセプター7名の計14名を対象に、入職1年後にインタビューを実施した。その結果、新卒看護師は先輩看護師からの精神的・道具的支援に感謝し、先輩看護師からの容認による安堵感を覚えているものの、先輩看護師は新卒看護師の実態を理解できていないことに対し憂慮している。また、先輩看護師は新卒看護師との関係形成と個性に合わせた支援の必要性を実感し、他の先輩看護師との新卒看護師の情報共有や役割分担を行っているものの、新卒看護師は先輩看護師から求められることと自分の能力のギャップによる混乱と拒否を感じている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the Difference of effective support that new graduate nurses and preceptor nurses. New graduates and preceptor nurses were interviewed, and the interviews transcribed, twelve months after having started working.

As a result, The senior nurses worried that new graduate nurse's realities cannot be understood though new graduate nurses were relieved by the allowance of the senior nurses in appreciation for a mental, material support from them. Though the senior nurses understood the necessity of the relation formation with a new graduate nurses and the support matched to individuality, and is doing the intelligence sharing and roles with other senior nurse. New graduate nurses were confused by the gap of request of the senior nurses and my ability and were refusing.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
年度			
総計	900,000	270,000	1,170,000

研究分野：看護管理学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：新卒看護師、プリセプター、先輩看護師、サポート、支援

1. 研究開始当初の背景

多くの新卒看護師が組織入職後、リアリティー・ショックに陥ることが古くより指摘されてる。近藤(2002)¹⁾はリアリティー・ショックの要因の一つに「支持してくれる人の存在がない」ことを指摘している。これに関連して、鈴木²⁾(2002)も心身のストレスを抑制するためには上司からの「道具的支援」「情緒的支援」が重要であると指摘している。

また、瀬川³⁾(2008)は、新卒看護師にとって、「先輩看護師のケアの奥深さを体感し、看護の喜びを感じる」とが職業継続に重要であることを示唆し、先輩看護師が自分の看護について積極的に語ることが、効果的であるとしている。

しかし、「新卒看護職員の早期離職等実態調査」⁴⁾の中で、新卒看護師は、職業継続の支えを「同じ部署の同期の同僚」「患者・家族からの感謝」「職場以外の家族や友人からの励まし」と回答しており、管理者や先輩看護師からのサポートはランクされていない。

また、牧山⁵⁾(2007)は早期離職した新卒看護師と上司の認識に心理的距離が存在し、新卒看護師に「本当の思いを伝えることが出来なかった」という思いが強く、離職者の本心を管理者が把握しにくい現実を指摘している。

このように、新卒看護師のリアリティー・ショックの緩和や職場適応に向けて、上司・先輩看護師からの組織的なサポートが重要視されているものの、実態調査では職業継続の支えとしては認識されていない。この背景として、管理者や先輩看護師が実施しているサポート内容が、新卒看護師に

正確に伝達されていない可能性や有効ではない可能性が考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下3点である。

1. 新卒看護師が認識しているプリセプターを含めた先輩看護師から支援に関する思いを明らかにする。
2. プリセプターが認識している新卒看護師支援に対する思いを明らかにする。
3. 上記1、2の内容を踏まえ、両者の認識の相違を明らかにする。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン

質的記述的デザイン

2) 研究期間

平成21年12月～平成22年1月リアリティー・ショックは、就職後3カ月くらいで陥り、6ヶ月から10ヶ月で徐々に回復に向かっていくとされる^{6,7)}。これを受け、本研究の調査時期は、リアリティー・ショックから回復しつつ、サポートを含めてた内省が可能と推察される就職後1年後に設定した。

3) 対象者

看護系大学を卒業し、大学病院に就職した者のうち研究参加の同意が得られた新卒看護師とプリセプターのペア7組、計14名。

4) データ収集方法

個別面接調査による半構成的面接法を用い、以下について質問した。新卒看護師に対する質問内容は、2007年度に使用したインタビューガイドをもとに、プリセプターに関する質問に焦点をあてたものを抜粋した。また、面接内容は対象者の許可を得て録音し、逐語録にした。

(1) 新卒看護師に対する質問
「就職して印象的な出来事や具体的な場面」
「プリセプターを含めた先輩看護師との関わり」「サポートされていると実感した関わり」

(2) プリセプターに対する質問
「新卒看護師にとって印象的な出来事や具体的な場面」「新卒看護師への関わり」「プリセプターとして新卒看護師にうまく関わられたこと、関われなかったこと」

5) データ分析方法

川喜多二郎の KJ 法^{8,9)} に準じ、以下のよう
に質的帰納的に分析を行った。

(1) ラベルの作成

発言内容のコンテキスト、ひとまとめの構造をもった意味内容のエッセンスに区切った(単位化)。これを 1 単位とし、各単位の内容の圧縮化を行い、ラベルを作成した。

(2) グループ編成

意味内容に類似性のある複数のラベルを集め、グループを編成した。この際、言葉の共通性など表面的な類似性ではなく、ラベルの本質の親近性に着目し、グループ化を行った。次に、グループを編成した各ラベルが包含する意味内容の類似性を表す「表札」と呼ぶ新しいラベルを作成した後、これをグループ化し「島」を作成した。

(3) KJ 法 AB 型による A 型図解化、B 型文章化

表札や島の内容がどのように配置すれば、意味の上で最もわかりやすい相互関係の配置をなすのかを探り、新しく空間に配置した。次に、A 型による図解上の隣接するデータ群へと進みながら、文章化を行った。

6) 倫理的配慮

本研究は、三重大学医学部倫理審査会の承認を得て実施した。研究協力者には、匿名性、自己決定の権利、不利益を受けないこと、情

報の機密性、本人の希望による研究結果の開示、費用の負担がないことを説明し文書で承諾を得た。

4. 研究成果

1) 研究対象者の背景と面接時間

研究対象者は 1 施設の新卒看護師 7 名とそのプリセプター 7 名である。新卒看護師の面接時間は 21~31 分、プリセプターは 18~26 分であった。その他の研究対象者の背景を表 1、2 に示す。

表 1 新卒看護師の背景と面接時間

対象者	性別	基礎教育課程	配属先	面接時間
A	女性	大学	整形外科	22 分
B	女性	大学	消化器外科	30 分
C	女性	短期大学 (3 年)	消化器内科	25 分
D	女性	大学	耳鼻科	23 分
E	女性	大学	小児科	21 分
F	女性	大学	胸部外科	25 分
G	女性	大学	NICU	31 分

表 2 先輩看護師の背景と面接時間

対象者	性別	経験年数	プリセプター経験	面接時間
H	女性	3 年	1 回目	18 分
I	女性	4 年	2 回目	18 分
J	女性	7 年	1 回目	26 分
K	女性	3 年	2 回目	22 分
L	女性	4 年	2 回目	22 分
M	女性	4 年	1 回目	25 分
N	女性	2 年	1 回目	19 分

2) ラベルの統合と KJ 法 A 型による図解化

新卒 7 名 A~G、プリセプター 7 名 H~N の単価した各ラベルを一つに統合し、グループ

3) ラベルの統合と KJ 法 AB 型による A 型図解化

新卒看護師 A~G の 7 名、プリセプター H~N の 7 名に関して、それぞれラベルの作成、グループ編成を行い、表札、島を作成した後、2 群を統合し図解化を行った (図 1)。

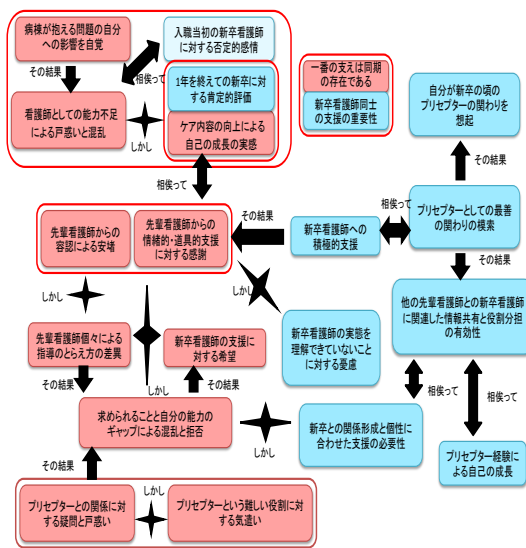


図1 新卒看護師とプリセプターの新卒看護師支援に関する思い

4) KJ法 AB型による B型文章化

以下に新卒看護師とプリセプターの新卒看護師支援に関する思いを記載する。導き出された表札は【】ラベルは『』で示す。

新卒看護師は、入職当初、『他職種と看護職の役割の混乱』等の【病棟が抱える問題が自分に及ぼす影響を自覚】し、【看護師として能力不足による戸惑いや混乱】を経験する。プリセプターは、組織人、専門職として未熟な【新卒看護師に対して否定的感情】を抱くこともあるが、入職後、1年を迎える頃には新卒看護師の【ケア内容も向上し自己の成長を実感】し、肯定的評価をするようになる。

この過程の中で、新卒看護師は【先輩看護師からの情緒的・道具的支援に対する感謝】や【先輩看護師からの容認による安堵】を感じている。その半面、【プリセプターという難しい役割に対する気遣い】を示しつつも、【プリセプターとの関係に対する疑問と

戸惑い】を感じ、新卒看護師に【求められることと自分の能力のギャップによる混乱と拒否】を示している。これは、【先輩看護師個々による指導のとらえ方の差異】から生じることもあり、先輩看護師に対する【新卒看護師の支援に対する要望】を抱くこともあるが、それを表出することはない。

これに対し、プリセプターは、【自分が新卒の頃のプリセプターの関わりを想起】しながら【プリセプターとしての最善の関わりを模索】する中で、自分一人ではなく【他の先輩看護師との新卒看護師に関連した情報共有と役割分担の有効性】を感じ、その過程で【プリセプター経験による自己の成長】を感じる場面も経験する。しかし、【新卒との関係形成と個性に合わせた支援の必要性】を理解し支援を行っているものの、新卒看護師は、【求められることと自分の能力のギャップによる混乱と拒否】を感じており、先輩看護師の考えや意図は伝わっていないことも考えられる。また、プリセプターの【新卒看護師への積極的支援】に対し、【先輩看護師からの情緒的・道具的支援に対する感謝】や【先輩看護師からの容認による安堵】を感じているものの、プリセプターからは【新卒看護師の実態を理解できていないことに対する憂慮】していた。

また、両者ともに新卒看護師の一番の精神的支えは新卒看護師の存在であると認識している。

このような結果から、プリセプターを含めた先輩看護師は、新卒看護師に対して、入職時から1年後の到達目標を示しつつ、ともに現段階の到達レベルを確認し、新卒の個別性に合わせて指導内容や方法を調整していることを明確に示す、あるいはその調整過程に参加させる必要がある。このような関わりを通して、新卒看護師は現在の自分の到達度を

自覚し、先輩看護師からの指導を一方的とはとらえず、双方向的に作り上げられたものであると認識できるのではないかと考える。

【引用文献】

- 1)近藤美月：新人看護師のリアリティー・ショックに関する縦断的研究、第33回日本看護学会（看護管理）抄録、257-259、2002
- 2)鈴木安名：新卒看護師の職業ストレス簡易調査票の分析 早期離職を防ぐには、病体生理、39(2)、31-39、2005
- 3)瀬川雅紀子、他4名：新卒看護師の職業継続意識に影響を与えた体験とその意味、第12回日本看護管理学会 年次大会抄録集、123、2008
- 4)日本人事労務研究所:参考資料 新卒看護職員の早期離職の実態、月刊人事労務、19(5)、34-37、2007
- 5)牧山紀子：退職した新人看護師の体験、第11回日本看護管理学会抄録集、68、2007 林有学：看護師のキャリア形成を規定する要因、第36回日本看護学会論文集、267-269、2005
- 6)近藤美月：新人看護師のリアリティー・ショックに関する縦断的研究、第33回日本看護学会（看護管理）収録、257-259、2002
- 7)水田真弓：新卒看護師の職場適応に関する研究、日本看護学会誌、23(4)、41-54、2004
- 8)川喜多二郎：発想法.中央公論新社、69-71、2005
- 9)川喜多二郎：続・発想法.中央公論新社、56-65、2004

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久田 雅紀子 (HISADA AKIKO)
三重大学・医学部・助教
研究者番号：70437101

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし